令和５年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立伊興小学校
校長　川上　佳士

１　学校教育目標

諸法令及び都・足立区の教育目標や基本方針を受け、人権尊重の精神を基盤とし国際化・情報化の社会を自分らしく生き、自己実現できる児童の育成を目指した教育目標を設定し、全教育活動を通してその具現化を図る。　〇思いやりのある子　〇よく考える子　〇やりぬく子　〇元気な子

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

〇学校像	●夢や希望を育む学校→★子どもたちの日々の生活に、教育目標や高い自尊感情が目に見える姿として現れている学校 ★教育への使命感に満ち、協働と研鑽で充実した教育を推進する学校 ★心の通い合う温もりがあり、教育機能を発揮するために保護者・地域と連携する学校
〇児童・生徒像	●夢や思いに溢れる児童→★思いやりのある子…互いの人格を尊重し、正義と思いやりをもつ優しい子 ★よく考える子…進んで取り組み、よく考え、伸び伸びと表現する子 ★やりぬく子…目標をもち、最後までやり遂げる子 ★元気な子…安全で健康な生活を心がけ実行する子
〇教師像	●夢を語り、希望を抱かせる教師集団→★子供の夢を育み、力を引き出すために、教育の質的向上を目指す[自ら学ぶ教師] ★教育目標の達成を目指し、創造的・建設的に教育力を高め合う[協働する教師] ★説明責任を果たし、信頼される学校づくりに努める[開かれた教師]

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

創立 147 年を迎える区内有数の歴史と伝統をもつ本校は、熱心で協力的な地域や保護者の方に支えられ、落ち着いた雰囲気の中で教育活動を展開している。明るく素直な児童が多いが、近年は学習や生活で配慮を要する児童も増えており、全職員と関係者と連携しながら組織的に対応している。必異動の教員や若手教員の割合が増す中、学校全体としての指導力の維持・向上が課題となっているが、力量あるベテラン教員がＯＪＴを通して若手の力を伸ばす文化が根付いており、総合力を維持しながら現在に至っている。

【前年度の成果と課題】

「学力向上」については、指標とする区学力調査の通過率が国語 84.2%、算数 81.7%であった。大半の学年が区の目標値を上回っているが、「思考・判断・表現」などの観点では区の平均値を下回っている学年も見られる。資料の読み取りから課題を解決する力に課題があり、教科書をきちんと読むことができる読み取る力を育成する取組の充実が必要と考える。「豊かな心の育成」については、学校評価アンケートで「楽しく学校生活を送っている」、「自分をかけがえのない存在だと思う」の２項目は高い数値で目標を達成した。ただ、登校渋り等の状況に変化は乏しく、コロナ禍で減少した他者との関りや自他が認められる場面を実施可能な方法で設定しいく必要がある。「体力向上」については、男子の握力、高学年男子の投力、女子の柔軟性が都の平均値を下回っている。今後も体育授業の質的改善を進めるとともに、運動の日常化につながる取組の充実を図る必要がある。

４　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	体力の向上	○	○	○	○	○

５　令和５年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

Ａ　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
基礎学力の確実な定着	・区学力調査の通過率 80%以上 ・ワークテスト正答率 80%以上	区学力調査の通過率は、学校全体で国 80.8%算 75.1%であった。	４～６年生の算数の通過率が 65%～70%となっている。学習の定着状況と具体的な取組は６（１）を参照。	○

Ｂ 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習	全児童 国語 算数	毎火・水 始業前 10 分	担任 漢字や計算の習熟及び確認テスト（ＡＩドリル含む）	・区調査の言語・技能の領域正答率 ・ワークテストの正答率	・正答率が区平均値以上 ・ワークテストの**正答率 80%以上**	・言語・技能の正答率が、概ね区の平均値と同等である。 ・ワークテストの正答率は、各学年 80%以上の正答率となっている。	区調査の言語正答率は、区平均と同等であるが算数の図形や測定の正答率が低くなっている。課題となる内容の習熟を図る必要がある。	○
2 継続	放課後 補習教室	個別指導が必要な児童 国語 算数	毎週 火・木 30 分	担任＋専科 つまずきに応じて、ドリル（ＡＩドリル含む）等で個別指導					○
3 継続	授業改善	全学年 全教科	通年	全教員 足立ＳＤによる授業、教科指導専門員による授業観察と指導、校内研究の推進	・区学力調査ワークテスト「思考」面の正答率	・正答率が区平均値以上 ・左記調査項目の正答率 80%以上	区学力調査、ワークテストともに「思考面」の正答率は、国語、算数ともに概ね区平均と同等である。	思考したことが言葉で表現できる授業実践の充実をさらに図る必要がある。	○
4 継続	家庭学習 の充実	全児童 全家庭	通年	全教員 低 15 分×学年、高 60 分の漢字や計算等の家庭学習を課す	学校評価 アンケート	家庭学習ができたと回答する保護者 90%以上	家庭学習ができたと回答する保護者は、66%と低下傾向にある。	家庭学習が継続的に行える課題に取り組めるよう啓発する。	△
5 継続	読書活動 の推進	全児童 図書	通年	担任 学年ごとに目標記録を設定し、達成を目指す	児童の 読書記録	目標達成児童が 80%以上	低学年は、目標を達成することができたが、高学年は、75%程度となった。	読書旬間だけでなく、日常の読書活動への取組を充実させる必要がある。	△
6 継続	ICT を利活用した授業の推進	全児童 全教科	通年	全教員 ICT 機器の利活用でより効果的な授業を提供する	・区の効果検証項目「教員の不安感」の結果	「ICT で効果的な授業ができない」と答える教員が 20%以下	ICT を活用した授業については、90%以上の教員が活用できている。	ICT を効果的に活用した授業実践が行えるようＯＪＴ研修を充実させる。	○

重点的な取組事項－２	豊かな心の育成

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自他をかけがえのない存在としてお互いを認めたり、力を合わせたりすることができる「思いやりのある子」「やりぬく子」の育成	学校評価の項目「児童は楽しく学校生活を送っている」の肯定的回答が 90%以上	保護者アンケートでは、肯定的な評価が前年度と変わらす 93%となっている。	引き続き自他を認め合える児童の育成をめざす。	◎

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
心の教育の推進	「いじめ」に関する教員研修と授業を３回以上実施、人権教育年間指導計画に沿った教育活動の充実と年２回以上の振り返り	・道徳授業地区公開講座での「いじめ」に関する授業公開と協議、研修の実施 ・人権教育年間指導計画の定期的な振り返りと評価する機会の設定	・いじめに関する教員研修と授業は、計画通り実施できた。 ・人権教育における年間指導計画に基づいた指導については意識的に行うことができた。	道徳地区公開講座も計画通り実施できたが、保護者に向けた意見交換会の充実を図る必要がある。	○
異年齢集団での活動	異学年による「なかよし班あそび」での活動６回以上、行事における異年齢の交流活動２回以上幼･保育園との交流２回以上	・集団編成の工夫も含め、異学年での集会や遊びで交流する。 ・連携幼・保育園との「小学校体験」や行事への参観。	・学習発表会において、異学年による鑑賞を実施し、お互いの作品のよいところを伝え合うといった場面が見られた。 ・幼保連携でも学習発表会の参観や体育の授業での交流を行うことができた。	・異学年の交流活動は、計画通りに行えた。 ・前年度に比べ、幼保連携をさらに充実させる活動が行えた。	◎
自尊感情や自己肯定感を高める支援の充実	学校評価項目「児童は自分をかけがえのない存在だと思い、伸び伸びと自信をもって行動している」の肯定的回答が 90%以上	・特別活動や地域行事等を通した児童の活躍の場とそれを認める機会の保障・拡充 ・「よさや活躍」に着目した情報の共有に向けた打合せや掲示板等の活用	・地域行事での吹奏楽部の参加回数を増やし、意欲的に活動させることができた。 ・保護者アンケートの結果では、肯定的回答が 84%となっている。	児童が自信をもって活動できる場をさらに充実させる教育活動を推進していく必要がある。	○
不登校やその傾向がある児童への支援の充実	不登校の出現率前年度比 10%以上削減	・各種会議による関係者間の迅速な情報共有と方針の確認、組織的な支援の実施と計画的な評価と改善 ・２回実施のＱＵ検査を活用した学年や学級経営の充実	・不登校出現率としては、ほぼ横ばいとなっている。 ・関係者間の充実した連携を図ることはできた。不登校児童に対して ICT 機器を活用したオンライン授業などの充実を図った。	・一定数の不登校児童は解消されていない。 ・児童が安心できる学級経営の充実を図る。	△

重点的な取組事項－３	体力の向上

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心身ともに健康な子供の育成	・都体力調査の体力合計点が都の平均値を上回る学年が60%以上 ・学校評価項目「学校は体力向上の工夫をしている」の肯定的回答が90%以上	・都の平均値を上回る学年は75% ・学校評価項目「学校は体力向上の工夫をしている」の肯定的回答は80%であった。	運動の日常化となるよう継続的に体力向上についての取組を計画的に行っていく。	○

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体育科授業の改善	都体力調査の児童質問紙調査項目「体育の授業は楽しいですか」の肯定的回答90%以上	・体育科における１単位時間の明確なめあての提示と振り返りを実施する。 ・実技を含む体育科の校内研修会を３回以上実施	・体育科における１単位時間の明確なめあての提示と振り返りについては実施できている。 ・体育科における校内の研修会については、計画的にＯＪＴとして年間３回実施することができた。	今年度は、ＯＪＴの計画の中に体育科の研修会を計画・実施することができた。来年度も同程度の実施を計画していく。	◎
年間を通した体力向上の取組と運動の日常化の推進	都体力調査の児童質問紙調査項目「１日の運動時間」で30分未満の児童割合が20%以下	・運動の日常化を視野に入れた運動朝会や集会を年10回以上、運動行事とそれを含む旬間の実施、 ・区のスポーツ大会への参加。と休み時間の外遊び奨励。	・運動の日常化を目指して、運動朝会や集会などを計画的に行うことができた。 ・休み時間の外遊びは意識的に行えているが、区のミニバス大会に参加し、決勝大会へ進出した。	休み時間の外遊びが前項の半分の学年ずつで行っている現状があるが、集会等を通して、今後も運動の日常化を図っていく。	○
運動を愛好する意識や自己の記録に挑戦する意欲の高揚	都体力調査の児童質問紙調査項目「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか」の肯定的回答90%以上	・体力テスト、水泳、持久走、縄跳び等の個人記録を家庭と協力して蓄積、目標達成に向けた取組を校内外で進めていく。 ・連合運動会等も含めた学校や学年の平均記録及び最高記録を校内に掲示。	・持久走の取組として、ペース走旬間を実施し、ペース走の様子を保護者へ公開するなど家庭と連携した体力向上の取組を実施することができた。 ・連合運動会等の記録については、掲示することはできなかったが、入賞記録を児童朝会で紹介するなど自己の記録に挑戦する意欲付けは行った。	自己の体力向上の高まりを意識させる持久走や縄跳び等の取組については、今後も継続的に実施していく。児童が日常的に体を動かす機会を増やし、引き続き体力向上に努めていく。	○

６　まとめ

（１） 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア　学力向上アクションプランについて

【課題】・４～６年生の算数の通過率が６５％～７０％にあり学力の定着状況に大きな課題がある。特に「測定、変化との関係」「図形」領域での習熟の割合が低い。

【対策】・授業では、長さの測定や作図等、具体的な操作活動による実感を伴う学習活動を多く取り入れる。

・補習学習では、前学年までの系統的学習内容に取り組ませ、知識・理解や学習意欲の向上が図れるよう指導する。

全体的な学力向上アクションプランについては、設定した達成目標を概ね達成できている。保護者アンケートにおいて、家庭学習ができたと回答している保護者は 66%となっているので、継続的に家庭でも学習に取り組めるよう啓発を行っていきたい。またＡＩドリルを活用した学習が個別最適な学びとなるように苦手なところを繰り返し学習し、確実に理解できるようにしていくなど、ドリルの取り組ませ方の共通理解を図り実施していく。

豊かな心の育成については、「なかよしタイム」による異学年の活動を行うことができた。また今年度については、学習発表会において異学年で発表の様子を鑑賞し、お互いのよさを認め合う機会を設けることができた。また、いじめに関する教員の研修を充実させ、人権尊重を基盤とした教育活動を行ってきた。しかし、児童が自信をもって活動できる場面が多く設けられたとは言えない。今後は、自分や相手に対してお互いのよさを認め合える教育活動をさらに充実させていきたいと考える。

体力の向上については、教師道場の授業研究を校内全体で参観する機会を設けるなどＯＪＴを計画的に行い、体育科における実践的な研修会を行うことができた。また、持久走や縄跳び等の個人記録を蓄積させ、運動を日常化させることにより自分自身の体力の高まりを実感させることができた。来年度も継続して運動の日常化となるよう計画的に行っていく。区のスポーツ大会への参加については、水泳とミニバスケットボールに参加し、ミニバスケットボールでは区の決勝大会へ出場し、好成績を残すことができた。次年度も継続して参加していけるよう校内の体制を整えていく。

（２）保護者や地域へのメッセージ

創立１４７周年を迎え、感染症に対する不安が少しずつ軽減されている中、子どもたちの活動は、徐々に活気を取り戻してきました。本校の教職員は、子どもたちにたくさんの経験や体験を味わわせてあげたいとの想いから、様々な工夫を凝らした教育活動を行ってまいりました。そのような中で以前のような教育活動に近づけていくことを目標とするのではなく、できることを進めていきながら新しい形を創造し、子どもたちのさらなる成長につなげていきたいと考えます。今後も子どもたちの安全・安心を第一に考え、今できることを最大限活かしながら教育活動を進めてまいりたいと思っております。

保護者や地域の方々に支えられながら、今年度も充実した教育活動を進めていくことができました。ありがとうございました。次年度以降も、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

（３）その他（学校教育活動全般について）

コロナ禍の影響は少しずつ緩和されてきたものの、今年度になっても様々な配慮を必要とする活動が多くあった。次年度も直接的な体験活動を重視し、児童が自らの体験を基に成長できるよう教育活動を展開していきたい。